

備後燃糸

和紙糸を将来50%へ

通年素材も協働で開発

備後燃糸（広島県福山市）は自主販売する和紙糸「備和（びんわ）」の売上高比率を将来的に全社の50%にまで高める。2018年3月期は30%を目標に掲げる。

ニット・ポー新潟（新潟市）とコラボし、備和

のオールシーズン対応系「パピア」の開発や、従来の織物、丸編み地用に加えて、先染め糸による横編み用など「提案の幅が広がっている」（光成明浩社長）ことから、今後の拡大に期待する。

パピアは春夏向けが主体の備和に
対して、秋冬向けにも使いたいとの声に応えたもの。芯部分に備和、鞘部分に綿を配する。
綿でカバーしているため、備和とは異なる

風合いがあり、織・編み物とも使用可能。混率は綿50%、和紙50%のため、反応染料・直接染料一浴で染色できる。その他、鞘部分に綿以外のさまざまな短繊維を組み合わせることにも可能としている。

パピアだけでなく、糸染めメーカーの協力を得て先染め糸の生産・供給体制も確立した。横編みセーター用を中心に提案も行う。

同社は受託加工が主体だが、昨年からは備和による自主販売を本格化。その一環で、昨年の「ジャパン・ヤーン・フェア（JYF）」に出展し、備和をアピールした。先頃開催された第15回JYFでも

先頃開催されたJYFでは織物から丸編み、横編みまで幅広く対応できる「備和」を訴求した

体は備和に
対して、秋
冬向けにも
使いたいと
の声に応え
たもの。芯
部分に備
和、鞘部分
に綿を配す
る。

綿でカバーしているため、備和とは異なる

織物から丸編み、さらに一求。採用企業の製品や生
横編み向けまで幅広い備地も展示して、来場者の
和のラインアップを訴関心を集めた。



和紙糸「備和」備後燃糸株式会社